校長室から ひがしなら通心（R元年度）

茨木市立東奈良小学校　川上　隆　No. 69
令和２年２月１９日（水）発行

ある新聞記事より

毎日・朝日小学生新聞２／１９

発熱4日以上で相談を

新型肺炎で目安

新型コロナウイルスによる感染症が全国で広がりを見せる中、国の役所の厚生労働省は17日、相談したり病院に行ったりする判断の目安をまとめました。「風邪の症状や37・5度以上の熱」が4日以上続くか、強いだるさや息苦しさがあるかが、ポイントになります。

新型コロナウイルスは、中国湖北省武漢市から中国で感染が広がりました。日本国内でも新型コロナウイルスに感染して肺炎で亡くなった人が出て、どこで感染したのかはっきりしない患者が各地で相次いで確認されています。政府は16日、専門家の会議を開き、国内の現状について「発生早期」と評価。症状が重くなる人への対応に力を注いでいくべきだとしました。

厚生労働省が目安を示したのは、国内で感染が広がった場合、発熱などがある人が相談センターや病院に押し寄せて対応できなくなるのをさけるためです。症状が重くなるリスク（危険が生じる可能性）が高い人には、症状が2日ほどあれば相談するよう求めています。具体的には、高齢者▽基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患）のある人▽透析（腎臓の代わりの装置で血液をきれいにすること）や免疫抑制剤、抗がん剤による治療を受けている人――が挙げられます。



新型コロナウイルスの相談の目安を説明する加藤勝信・厚生労働大臣＝東京都千代田区で17日

子どもは目安通りに

妊婦にも早めの相談を勧めています。子どもについては、これまで症状が重くなりやすいという報告がなく、基礎疾患があるかどうかで目安の通りに対応します。

目安に当てはまる人は、まず各地の「帰国者・接触者相談センター」へ電話します。病院に行くのは、このセンターに勧められてからです。

目安を発表した加藤勝信・厚生労働大臣は「発熱など風邪症状がある場合は、学校や会社を休んでください。感染拡大の防止につながります」と呼びかけました。

＝2、3面に関連記事

新型肺炎の相談・受診の目安

症状

❶風邪の症状や37.5度以上の熱
❷強いだるさや息苦しさ

↓

高齢者、基礎疾患のある人、妊婦などは、❶が**2日程度**または❷がある場合
それ以外の人は、❶が**4日以上**または❷がある場合

↓

地域の帰国者・接触者相談センターに電話

↓

勧められた医療機関を受診

新型肺炎 国が受診目安示す

風邪っぽいときは学校休んで

新型肺炎が日本でも広がりつつあるので、政府の専門家会議が17日、医療機関を受診するときの目安をまとめました。

それによると、発熱など風邪の症状があればまずは学校や会社を休み、外出をひかえるように求めました。そのうえで、風邪の症状や37・5度以上の発熱が4日以上続くときは、各地の「帰国者・接触者相談センター」に相談します。海外に行ったかどうかにかかわらず、だれでも相談できます。強いだるさや息苦しさがあるときは、すぐに相談しましょう。

センターが新型肺炎の疑いがあると判断すれば、指定した医療機関を受診します。受診するときはマスクをつけ、手洗い、せきエチケットをしっかり行いましょう。

もしかして新型肺炎？

「帰国者・接触者相談センター」のQRコードとURL

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/covid19-kikokusyasessyokusya.html

手をよく洗おう

感染症の専門家・岡田晴恵さん



学校の感染症対策に詳しい白鷗大学特任教授の岡田晴恵さんに学校で気をつけることを聞くと、「コロナウイルスは、せきやくしゃみで出る飛沫（つばの小さな粒）に含まれています。口や鼻をおさえる『せきエチケット』を習慣にしましょう。また、よく手を洗いましょう。コロナウイルスは手、指についていることがあります。それで口や鼻や目をさわると感染することがあります」と教えてくれました。家庭で気をつけることについては、「コロナウイルスは、うんちに出てきます。ですから、濃度0・1％にした塩素系漂白剤の消毒液でトイレの周りや便座などをふき取りそうじをしましょう」と指摘しました。

吉田さんの作文「身近な命」を紹介します

前号で紹介した６年生の吉田梨乃さんのエッセイ（茨木市ＰＴＡ協議会会長賞）を紹介します。



「身近な命」　吉田 梨乃　　茨木市立東奈良小学校　６年１組

私の母のきょうだいは産まれた時から心臓が悪く、３才の時に手術をしました。その手術が終わってからはとても元気そうだったので、最近まで私とも一緒にたくさんの所へ遊びに行きました。しかし出産を終えるとだんだん「ハァー」と聞こえることも多くなりしんどそうになっていました。病院へ行くと、また手術をしなければならないと言われ、すぐに手術をしました。

手術前、いつもはにぎやかな祖父や祖母、私の家族、親せきの人たちや私も不安な気持ちでいっぱいでした。（もしも死んでしまったらどうしよう）そんなことばかり考えていましたが、手術は無事成功し、日が経つにつれ、前よりもさらに元気になっていきました。

今回のことで私たちにとって一番身近な命は何よりも大切であり、自分一人だけではなく、周りの人たちにも支えられながら生きているんだと思いました。たくさんの人に支えられている命を大切にしていこうと思います。